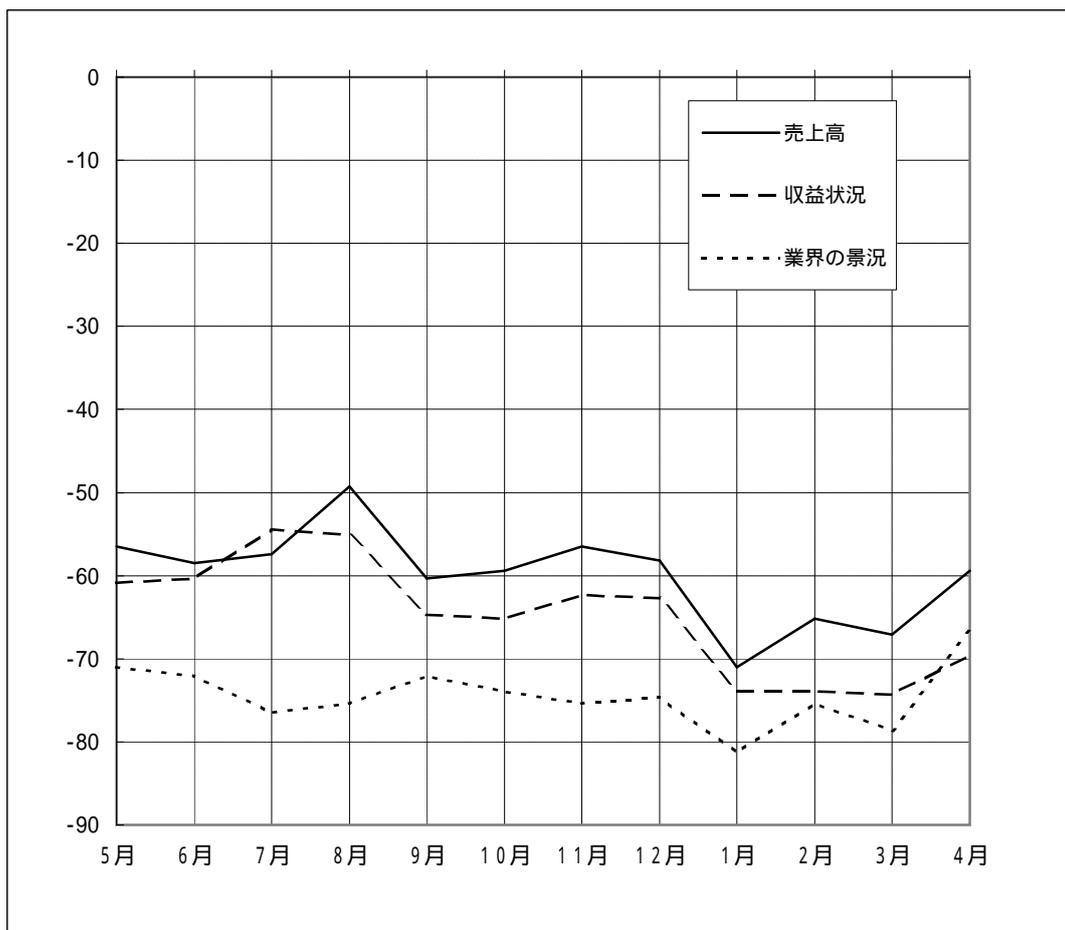


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成13年5月～平成14年4月

単位:ポイント



	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
売上高	-56.5	-58.5	-57.4	-49.3	-60.3	-59.4	-56.5	-58.2	-71.0	-65.2	-67.1	-59.4
収益状況	-60.9	-60.3	-54.4	-55.1	-64.7	-65.2	-62.3	-62.7	-73.9	-73.9	-74.3	-69.6
業界の景況	-71.0	-72.1	-76.5	-75.4	-72.1	-73.9	-75.4	-74.6	-81.2	-75.4	-78.6	-66.7

4月の前年同月比DI値をみると、総ての項目にて改善されたものの、昨年4月の水準までは戻っていない。「景況」は前月より11.9ポイントと大幅な改善となり昨年5月以来11ヶ月続いた70%台を割り込み、一年振りの60%台となった。

また、「売上高」は7.7ポイントの改善、「収益状況」は4.7ポイントの改善と、ともに4ヶ月振りに50%台、60%台になったものの、収益状況の改善幅が少ない現状から、中小企業の業況は、まだまだ予断を許さない状況下にある。

業種別の「景況」をみると、製造業では、不変とする業種が増えた中、「鉄鋼・金属」「窯業・土石製品」「一般機器」で悪化の割合が高く、また、非製造業も、不変とする業種が増えた中で、「商店街」で一部好転がみられたものの、総体的には製造業より悪化の割合が高く、「建設業」「卸売業」「商店街」でその傾向が顕著である。

組合の特記事項からは、「鉄鋼・金属」「一般機器」を含めた製造業では、受注の減少や販売価格の低下の他国内生産の空洞化等、「商店街」「卸・小売業」「サービス業」を含めた非製造業では、消費低迷及び売上高の減少や収益の悪化等の報告がみられた。そんな中で一部の商店街では、イベントの実施や空き店舗への出店等で賑わいが戻ったという明るい話題も報告されたが、全体的には倒産・廃業の報告もあり厳しい状況が窺われる。